



○生育状況を見て追肥、倒伏軽減を検討しましょう！

小麦の生育進度は平年並で、生育の早いほ場では幼穂形成期に入りました。その他のほ場でも平年並に幼穂形成期（4月27日頃）になると予想されます。

本年の生育量はやや過繁茂状態であり、茎数は昨年よりも多い傾向にあります（表1）。生育に応じた追肥を実施してください（表2）。

茎数が多く、葉色が濃いなど明らかに倒伏すると判断される場合、植物成長調整剤の使用（表3）を検討しましょう。

表1 参考：令和4年春の秋まき小麦生育状況（令和4年4月22日調査）

地区	畝幅(cm)	R4年茎数 (本/m ²)	R3年茎数 (本/m ²)	草丈(cm)	備考
JA今金地域	12.5~30.0	1,943	1,660	12.1	6ほ場平均
JAきたひやま地域	12.5~30.0	1,688	1,557	17.9	5ほ場平均
JA新はこだて若松基幹支店地域	12.5~18.0	2,257	1,790	14.9	2ほ場平均

表2 時期別窒素施肥例（幼穂形成期茎数が1000~1500本/m²の場合）

生育期節	起生期	幼形期	止葉期	出穂始
窒素成分	0~2kg	2~4kg	4kg	-

※ 過剰な施肥は倒伏の恐れがあるので注意しましょう。

表3 倒伏軽減に向けた植物成長調整剤の使用例

薬剤使用例

農薬名	使用時期	薬量または倍率	水量	使用回数
サイコセルPRO	6葉期前後 (草丈30~40cm)	春小麦： 150ml/10a	100L/10a	1回
	幼穂形成期	秋小麦： 150~200ml/10a		2回以内 (幼形期1回以内、 出穂前1回以内)
	出穂前20~10日 (草丈40~60cm)	秋小麦： 200~300ml/10a		
エスレル10	止葉期~出穂始期	春小麦： 300~500倍 秋小麦： 300~500倍	100L/10a	1回
	出穂始期	春小麦： 300~1000倍		
カルタイム フロアブル	止葉期~出穂始期 (出穂5日前まで)	春小麦： 150ml/10a	100L/10a	1回
		秋小麦： 150~200ml/10a		

※サイコセルPROは、2回以内（幼穂形成期は1回以内、幼穂形成期後は1回以内）の総使用回数となります。

①サイコセルPRO

散布時期が遅れると効果が劣ります。

散布直後に降雨があっても再散布は行わないでください。

高温時の散布で薬害を生じることがあるので、晴天の日は日中を避け夕方に散布してください。

②カルタイムフロアブル

伸長を過度に抑制させないために、必ず所定の使用量、使用時期を厳守し、多量散布や重複散布にならないように注意してください。

その上で展着剤は加用せず、尿素との混用は避けてください。

また、参考としてシルバキュア、チルト乳剤、アミスター20フロアブル、アドマイヤー顆粒水和剤、エルサン乳剤等と混用する事例では問題はなかったとの使用例がありますが、積極的に進めるものではありません。混用については、関係機関と相談して下さい。

③エスレル10

30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので適期に処理してください。

④サイコセルPRO、エスレル10は他剤と混用せず、除草剤散布との間隔もあけてください。

●追肥量の判断がつかない場合は普及センター、
関係機関へご相談ください。

○●落ち着いて農作業を行いましょう！！●○